杉並病院　眼科外来にて集合写真

下段左から：矢田長洋助教、渡辺交世准教授、北善幸教授、石田友香准教授
右上：前田菜津子医師　　他：看護師、ORT、クラーク一同

新医局員の紹介

大原 裕美

昨年10月よりVRフェローとしてお世話になっております大原裕美と申します。昨年までは広島大学病院でサージカルレチナやメディカルレチナを専門に診療を行ってまいりました。この度、網膜硝子体手術のさらなるスキルを勉強させて頂ける機会をいただくことができました。赴任して半年ほどがたち、アイセンターの非常に多くの網膜硝子体手術症例に驚く一方、井上真教授をはじめとする多くのVR専門医の先生方の手術は、日々勉強させていただいております。至らない点ばかりですが、アイセンターの一員として貢献できるよう微力ながら努めてまいりますので、何卒ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

イベント情報

＜第67回東京多摩地区眼科集談会＞（現地開催のみ）
2024年10月26日（土）14:30～17:00　場所：杏林大学 大学院講堂
会費：1,000円（日本眼科学会認定専門医１単位）
教育講演：「遺伝性網膜疾患における検査、治療等最新のトピックスについて（仮題）」
角田 和繁 先生（東京医療センター視覚研究部 部長）

＜第26回西東京眼科フォーラム＞（現地開催のみ）
2024年11月6日（水）19:00～21:00　場所：吉祥寺エクセルホテル東急８階
会費：1,000円（日本眼科学会認定専門医１単位）
特別講演：「小児眼科関連（仮題）」富田 香 先生（平和眼科 院長）

編集部からのコメント

杏林初めての第二病院である杉並病院がスタートしました。さらには新入医局員や新フェローの先生を迎え、緑内障センターでもある杉並病院と連携した杏林アイセンターとなるように運営していきます。（M.I.）

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 70
Spring
2024

〒181-8611東京都三鷹市新川6-20-2　杏林アイセンター　Tel: 0422-47-5511（ext. 2606）Fax: 0422-46-9309

◆杏林大学医学部付属杉並病院の開院について（北 善幸）…<1>
◆専門外来のご案内 ……<2-4>
◆新医局員の紹介 ……<4>
◆イベント情報 ……<4>
◆編集部からのコメント ……<4>

＜執筆者：括弧に明記　production：鎌田紗知衣、長堀克哉、仲嶌みずき＞

杏林大学医学部付属杉並病院の開院について（北　善幸）

北　善幸

杏林大学医学部付属病院の初の分院として、杏林大学医学部付属杉並病院が本年４月１日に開院いたしました（図1、２）。同時に北　善幸が眼科病院教授および眼科科長を拝命いたしました。当院は、杉並区における唯一の大学病院となります。このエリアにおける地域医療を担うだけでなく、難治性眼科疾患に対する最新の検査・治療設備を整え、最先端の医療技術を駆使して診断と治療を行うことを使命としています。

眼科外来の現在の体制は、常勤医師５人（私、渡辺交世准教授、石田友香准教授、矢田長洋助教、前田菜津子医員）と視能訓練士４人で構成されています。眼科一般の診療も行っておりますが、特に、緑内障、網膜硝子体疾患、白内障、そしてぶどう膜炎などの疾患に力を注いでいます。また、非常勤で三鷹の杏林アイセンターから鈴木由美准教授（斜視弱視）、福井正樹講師（角膜）が各専門外来の診療を担当しています。さらに、杏林アイセンターの特徴の一つであるロービジョン外来（担当：新井、尾形）も月に２回の頻度で開設しております。今後、常勤医師を増員し、専門外来を充実させていく予定です。

眼科機器に関して、当院では、OCTやOCT angiography、前眼部OCT、広角眼底撮影装置などの最新検査機器を導入し、さらに手術機器もOCT付き手術顕微鏡や最新の白内障手術装置、硝子体手術装置を備えております。是非、難治症例の患者さんもご紹介いただけると幸いです。

私は緑内障診療を専門にしておりますが、この分野においても診断技術や薬物治療、手術治療がどんどん進歩しております。当院では、これらの進歩に即座に対応し、最新の診断機器や治療法を導入し、一人でも多くの患者さんが失明を免れるよう努めてまいります。

図1：杏林大学医学部付属杉並病院　外観
環7を走行中に病院の上方のロゴが確認できます

図2：杏林大学医学部付属杉並病院　開院式
4月1日に開かれ、平形医学部長が挨拶されました

杏林アイセンターのようにあらゆる専門分野に対応することが現在はできておりませんが、今後、杏林アイセンターと協力し、診療に努めてまいります。スタッフ一同、杏林アイセンターでの経験を生かし、日々精進してまいりますので、皆様のご支援と患者さんのご紹介を心よりお願い申し上げます。

専門外来のご案内

【緑内障外来】　担当：北 善幸、矢田 長洋

矢田 長洋

杏林大学医学部付属杉並病院の緑内障班の矢田長洋と申します。当院の緑内障外来は教授の北とわたくし矢田で構成しています。昨年度までは三鷹の杏林大学病院で緑内障外来を担っておりました。

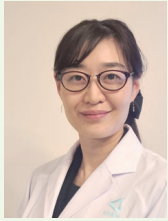
当院は今年の４月より開院となり立ち上げから間もない状況ですが手術機器や設備などは基本的にそろっております。当院ではiStent injectW、線維柱帯切開術、線維柱帯切除術、プリザーフロ®マイクロシャントなどほとんどすべての術式に対応可能です。チューブシャント手術に関しては間もなく対応可能となる予定です。また三鷹の本院と連携して毛様体レーザー光凝固術も行っております。高眼圧による眼痛に対する疼痛コントロールや、手術希望はないけれどもレーザー治療は考慮したいというような患者さんに対してマイクロパルス毛様体光凝固による治療も可能です。また現時点で緊急症例の受け入れも可能ですので手術が必要な患者さんは遠慮なくご紹介ください。

当院では本院からのサポート体制もあり、角膜外来、ぶどう膜炎外来、硝子体外来、糖尿病外来など各専門外来が充実しております。ぶどう膜炎による続発緑内障や増殖糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞などによる血管新生緑内障に対して緑内障治療を行うだけでは根本的な治療にはつながらないと思っております。当院では各専門分野との協力体制が取れますので原疾患に対する治療から可能となっており、患者さんの長期予後に貢献できると思っております。

杉並区周辺地域において緑内障の基盤となる病院になることを目標としています。緑内障の診断に迷う患者さんや手術適応になりそうな患者さんは是非ご紹介いただければと思います。

最善の眼科医療を提供できるように日々精進を重ねております。なにとぞよろしくお願いいたします。

【網膜硝子体外来】　担当：石田 友香、矢田 長洋


石田 友香

当院の網膜硝子体斑では、網膜硝子体疾患について重症度を問わず加療させていただいております。裂孔原性網膜剥離や硝子体出血の他に、眼内炎や眼球破裂などの緊急疾患も対応させていただきます。全身麻酔での手術も対応可能です。

網膜硝子体は重症例も多く、全ての患者さんを完全に回復した望み通りの結果で社会にお戻しすることはかなわないのも現実です。だからこそ、我々の元に来てくださり、手術を任せて下さる患者さんにはできる限りのことをしたいと思っています。手術でなるべく多くの視機能を残す、そして、その後のロービジョンケアの中で、失ったものを数えるのではなく、残ったものを生かし、患者さんが前向きに生きていけるお手伝いをする、そこまでが我々の仕事であると思っています。

「謙虚であれ、人に対する敬意を忘れるな」という杏林アイセンターでの教えを大切に守り、今後も医師、コメディカルによるチームを強化していき、今まで培ってきた経験や技術を地域の皆様のお役に立てるよう精進していきたいと思います。

今まで三鷹の地でも、術後の落ち着いた患者さんを丁寧にみていただく安心感のある病診連携に助けられ、重症患者さんの治療に専念することができました。杉並でも、地域の先生方のご指導をいただき、病診連携を密にとることで、我々を頼ってくださる全ての患者さんに適切な医療を提供できるように努力させていただけますと幸いです。なにとぞ、よろしくお願いいたします。

＜取り扱い疾患＞

- 黄斑円孔、黄斑上膜、黄斑牽引症候群、強度近視性黄斑疾患（網膜分離、剥離）などの黄斑疾患
- 増殖糖尿病網膜症
- 裂孔原性網膜剥離、増殖硝子体網膜症（小児も可）、硝子体出血
- ピット黄斑症候群、緑内障に伴う黄斑分離
- 眼内レンズ脱臼・亜脱臼、水晶体脱臼・亜脱臼
- 眼球破裂など

＊悪性腫瘍と未熟児網膜症は対応できません

杉並病院眼科の専門外来は、他に角膜・眼瞼外来、小児眼科・斜視外来、ロービジョン外来がございます。
詳しくはホームページをご覧ください。

【糖尿病外来】　担当：石田 友香、勝田 秀紀（内科）、岡野 芝子

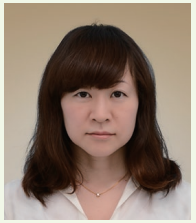
このたび、長年本院で行われてきた眼科と内科の合同外来である糖尿病外来を杉並病院に引っ越しさせてきました。

手術の適応になる増殖硝子体網膜症の血糖コントロールや、黄斑浮腫の加療を行っています。手術は、硝子体出血から増殖の強い剥離まで、全ての病態に対応しております。特に増殖の強い増殖糖尿病網膜症の手術を専門に行っています。

黄斑浮腫の加療は近年抗VEGF療法が主流となり、良好な成績を収めていますが、全身状態、経済的困難、針を眼球にさすこと自体に対する患者さんの恐怖心など様々な要因があり、全員が抗VEGF療法を満足に受けられる状態ではないという現状があります。私たちは、現在発売されている全ての抗VEGF薬を使用するだけでなく、従来通りのレーザー治療、ステロイド治療、場合により手術など、患者さんの状況に応じた個別の治療を提供するようにしております。

また、近年では経口糖尿病薬の一つであるSGLT2阻害剤の投与で難治性の黄斑浮腫が治癒するケースも報告されています。実際には眼科医による処方は難しいため、研究も難航しておりますが、当院では眼科医と内科医が一緒に外来をやることで、SGLT2阻害薬投与による黄斑浮腫治療も行うことが可能となっているのが、大きな特徴とも言えます。また最近では珍しいですが、眼科で糖尿病が発見されるような場合にはそのまま血糖コントロールを合同外来で行うこともあります。糖尿病は、眼科としては治療が多岐に渡る疾患であり、患者さんとの密なコミュニケーションのもと丁寧な加療を要する疾患でありますが、全身の管理が必要である疾患ですので、眼科内科合同外来は画期的で理想的な外来であると信じております。どうぞよろしくお願いいたします。

【白内障外来】　担当：渡辺 交世


渡辺 交世

4月から三鷹の本院と同じZEISS社の顕微鏡Lumera700とAlcon社の白内障手術機器CENTURION®が入りました。これまではLeica社のM844顕微鏡とAMO社のSignature®を使用しており問題なく手術を行えておりました。Leicaの顕微鏡は焦点深度が深く溝の深さや嚢内の奥行きなど立体的につかみやすいのに対し、ZEISSの顕微鏡は焦点深度が浅いのが気にはなりますが、焦点深度と解像度は相反するためCCCや後嚢研磨の場面では解像度のよさを実感します。CENTURION®は、周知の通り硬い核の破砕効率が良く、NS 4-5でも速やかに処理され、また前房の安定性も抜群です。機器の経年劣化もありますので、今後はこちらをメインに使用していくことになります。

検査機器では前眼部OCTのCASIAが入り、後部円錐水晶体・硝子体注射後などの後嚢菲薄化や破損が疑われる症例や水晶体・眼内レンズ脱臼の状態確認が可能となります。また、眼内レンズの度数計算には広く使用されている第3世代のSRK/T式以外に、Barret Universal II式などを用いて、通常の症例は勿論、長短軸眼や角膜屈折度数が標準から外れている症例に対しても、術後屈折度数の正確性向上に努めています。

そして、患者さん一人一人の生活様式、仕事や趣味、眼鏡使用の有無や乱視加入等から、術後の生活のビジョンを想定し、相談しながら眼内レンズの狙い度数を定めております。さらに、現在使用しているTORICレンズ・LENTISやアイハンスなどの付加価値眼内レンズに加え、旧施設では制約があり使用できなかった多焦点眼内レンズについても今後導入に向けて準備を進めていく予定です。私たちの主観ではなく、患者さんにいかに満足していただけるかを中心に考え、これからも白内障診療・手術を行って参ります。